

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (北海道)		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・新規の問い合わせが増えてきている。来年度以降の旅行についての問い合わせも増えてきている。また、1件当たりの取引額も増えてきている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・今年は大雪の日がなかったため、比較的順調に推移している。外国人観光客も前年と比べて若干増えているようだ。ただ、データを見ると、韓国人の増加が目立っており、韓国人は物販消費には全く寄与しないことから、人が多い割に売上が上がっていない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・アジア人観光客が高額なコンプを買うことに驚いている。12月の売上は前年比124.7%、前々年比111.3%であった。
		百貨店（売場主任）	競争相手の様子	・同業他店の数字をみても、軒並み前年実績をクリアしている。なかでも特選衣料や高額な宝飾品がよく売れている。これらのことから景気の回復傾向がうかがえる。
		百貨店（担当者）	来客数の動き	・直近の悪天候による影響を受けているものの、近隣商業施設との共同施策などの効果もあり、客足は順調に伸びている。
		百貨店（営業販売担当）	単価の動き	・衣料品が前年比プラスとなっている。気温が低めで推移したこともあり、コートなどのアウター類が婦人物、紳士物共、大幅に伸びている。食品、雑貨類も堅調に推移している。ただ、全館での来客数は前年を下回っている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を超える日が増えてきているなど、全体的に増加傾向にある。また、12月ということもあり、販売量も増加傾向にある。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・売上と来客数が共に伸びていることから、景気はやや良くなっている。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・明らかに客の購買意欲が高まっており、客単価が前年よりも2割高くなっている。
		自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・冬タイヤのほか、スノーブラシ、タイヤチェーン、スコップなどの冬季商材が前年比110%と好調に推移している。また、寒さの影響もあり、バッテリー販売も好調である。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・12月で忘年会が多いこともあるが、例年と比べても客が多いように見える。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・中国、韓国からの観光客が前年の1.7倍で推移している。11月に市内で開催された芸能イベントも追い風となった。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・農家の動きが確実に良くなっている。行き先をはっきりと決めずに来店し、年末年始で空いているところ、海外で暖かいところなど、自分の希望に見合った場所に旅行したいという客が複数名みられた。また、そうした客は予算にこだわりがないことが多い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・前年と比べて平日の宴会が増加しており、景気そのものの良さが感じられる。ただ、当社については乗務員不足の影響で思うように販売量を確保できない状況にある。また、タクシーの稼働台数も少ないため、帰宅する顧客を待たせる状況が続いている。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・客の消費意欲が高まっている。特別なキャンペーンなどを行っていないにもかかわらず、12月の技術売上は前年から約10%の増加となった。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・12月の売上は前年から5%強の増加であった。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株価が堅調に推移しており、為替も安定していることから、景気はやや良くなっている。	
	商店街（代表者）	販売量の動き	・クリスマスギフトの客単価、販売量共、前年と比べて落ち込んでいる。ただし、自己購入の客については客単価がやや上がっている。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・政治情勢の騒がしさや北朝鮮問題などがみられるが、客の日々の生活は変わらない。	

商店街（代表者）	来客数の動き	・12月は年末大売出しの月ではあるが、当商店街において物販全般で売上を伸ばしている店舗は少なかった。また、年末抽選会の会場の様子をみると、時刻によってばらつきはあるが、前年と比較して景品を交換している客の数は余り多くなかった。これは高額商材の売行きが鈍かったこと、12月としては珍しい強い寒波が訪れたことで出控えする客が多かったことが要因とみられる。
一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・3か月前と比べて、ほとんど変化はみられない。ただ、得意先の中には客単価が上がっている店舗もみられるなど、景気が底を打っているような雰囲気もある。
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・クリスマス商戦が一段落し、歳末商戦が始まったが、例年と変わらない状況となっている。年始の初売りにおいても、それほど大きな変化は起こらないと見込まれるため、景気に大きな変化はみられない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・ハレ型商材の動向は良いが、ケ型商材は客の価格に対する目が厳しい。来客数、客単価共、変化はみられない。
スーパー（企画担当）	それ以外	・足元のクリスマス商戦は好調であったが、特別な商戦以外の日常の日々の売上動向はやや低調気味である。また、グループ内で好不調の地域間格差がはっきりしてきており、地域の消費動向としてはまだら模様というのが実情である。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・クリスマスが週末と重なったことで、クリスマスケーキなどの需要が量販店に流れた雰囲気がある。ただ、連休が少なかったことから、来客数は維持できており、月間ではそれほど大きな減少とはならなかった。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・売上は維持できているものの、来客数が増えてこない。
コンビニ（店長）	来客数の動き	・依然として来客数が前年を5%ほど下回っており、それに伴い売上も前年を下回っている。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・12月は後半になって来客数が伸びてきた。一方、客単価はほぼ前年並みであった。気温の低い日が続いたことから、電気暖房器具などがよく売れている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数は余り変わらないが、販売量が前月よりもやや減っている。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・数字的には前年並みで推移している。客は相変わらず必需品のみを購入しており、新しい商材に対しては財布のひもが固い。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が安定していることから、売上は好調に推移している。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・月によって変動があり、良い時期と悪い時期が不定期に入れ替わっている。
タクシー運転手	来客数の動き	・12月は1年で最もタクシーの売上が良い時期であり、今年も年末の繁忙期は電話注文が多いなど、忙しかった。タクシー1台当たりの売上は前年から6%程度のプラスとなったが、乗務員不足の影響でタクシーの稼働率が悪いと、会社の売上は前年から3%程度のマイナスであった。
タクシー運転手	来客数の動き	・観光客の利用件数が減少したものの、イベント関係での利用件数がやや増加したことから、全体的には変化がみられなかった。
観光名所（従業員）	来客数の動き	・12月29日時点の利用乗降客数が前年や前々年の同時期とほぼ同数であることから、景気は変わらない。
美容室（経営者）	それ以外	・客1人当たりの単価が上がっている一方で、低価格の店舗に移る客も多くみられる。
住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・モデルルームに来訪する客の多くは、分譲マンションの購入を急いでいないこともあり、じっくりと時間を掛けて検討することがほとんどである。このところ、こうした客の様子に変化がみられない。
商店街（代表者）	販売量の動き	・生鮮食品の価格が高騰していることもあり、商店街での消費になかなかつなげてこない。お歳暮に海産物を贈ろうという動きは遠のくばかりである。
百貨店（役員）	来客数の動き	・来客数に加えて、販売額も減少しており、景気はやや悪くなっている。
スーパー（役員）	それ以外	・水産関係や観光関係の景気が悪いことが影響している。関係者による年末の忘年会も減ったようである。

	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・漁業不振が続いていることで、加工場の稼働が落ちている。それに伴って自店の来客数にも影響が出ている。	
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・ギフト需要の時期であったにもかかわらず、プレゼントの販売量が少なかった。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・季節的な影響もあるのかもしれないが、販売量がやや下向きとなっている。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・北海道において12月は谷間の月となる。天候の影響もあるが、今年も厳しい月であった。	
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・この季節は外国人客が目立ち、日によっては家族連れの外国人客が客の半分を占めることもあったが、全体ではランチ、ディナー共、8割くらいの入込にとどまった。一方、例年、12月はクリスマスがあり、高額なコース料理も出ることから、客単価が高くなる傾向にある。結果的に12月の売上は前年を8%下回った。	
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・クリスマスは曜日並びが悪かったため、クリスマスイブの日曜日の予約が落ち込むなど、やや悪かった。団体予約の客単価も低下した。食材の値上げが続くこともマイナスである。また、当店では余り影響がなかったが、今年は早めの降雪があったことから、ランチのフリー客が中心の店舗では、荒天や悪路のたびに来客数が落ち込んだようである。	
	観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・外国人観光客、国内客共、団体客の動きがとても悪い。また、道内において外国人観光客が札幌周辺に偏在しているため、地方の景気は余り良くない。	
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・12月は各地の観光イベントも少なく、4月と並んで観光客の少ない月である。また、年末年始はビジネス需要もほとんどなくなるため、航空需要全体が落ち込む月となる。ただ、前年と比べて安定した天候で欠航便が少なかったことは明るい要素であった。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・当市の人口減少に歯止めが掛かっていないため、同業他社も含めて売上が減少傾向で推移している。また、当社に限れば、高齢化により社員が減少しており、タクシーの稼働率が落ちていることもマイナスとなっている。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・当業界にとっては人の流れが重要であり、景気や季節に左右されやすい面がある。回復傾向を感じるには、地域全体の景気回復が必要であり、このままでは現状のやや悪い状況が長引く可能性がある。	
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・競合他社への引き合いが増えている。自社サービスの販売も伸びているものの、前年実績を上回ってこない状況にある。	
	パチンコ店（役員）	単価の動き	・観光業界は上向いているが、他の業種については上向く要因が見当たらない。	
	x	タクシー運転手	販売量の動き	・売上が前年を下回り続けており、一向に回復してこない。
	x	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・天候悪化による欠航が続いており、人、物の輸送量が共に落ち込んでいる。
企業動向関連 (北海道)	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前の販売量は前年比プラス5%であったが、12月の販売量は前年比プラス11%であった。	
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・東京オリンピックに向けての需要が顕在化しつつある。マンション及び宿泊施設向けの案件が増加している。	
	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年末需要もあったため、まずまずの物量があった。ただ、農産物の供給調整、道内水産物の全般的な不漁の影響などもあり、期待していたほどの物量ではなかった。	
	建設業（従業員）	競争相手の様子	・公共建築工事の年度内発注がほぼ完了しており、民間建築工事の新規発注は受注側が能力的に対応できない状況となっている。	
	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・根雪の始まりが記録的な早さであったが、工事現場への影響は限定的であった。受注工事は予定どおり進捗しており、完成工事高の積み上げが順調な状況に変化はみられない。	
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・冬場にしてはまずまずの仕事量があったが、軽油の値上がり感が徐々に影響してきており、利益増には結び付いていない。	

	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と同様に、当社の販売量は計画どおりに推移しているため、やや良い景況感が継続している。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・引き続き外国人観光客の増勢が道内景気をけん引している。個人消費は底堅く推移しているが、スーパー、コンビニの売上が前年割れするなど、やや減速感もみられる。総じてみれば、道内景気は3か月前と横ばいでの推移となっている。
	司法書士	取引先の様子	・高齢化や人口減少により、不動産取引が年々減少傾向にある。また、最近は中古物件の取引が増え続けている。
	司法書士	取引先の様子	・建築関係において冬期間の仕事の受注に向けて営業を強化する動きがみられたことで、多少なりとも不動産取引が伸びているが、景気を回復させるだけの力強さには欠けており、景況感に変化はみられない。
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・客先の慎重な姿勢が続いている。社員への還元も従来どおりで、ボーナスなどの大幅なアップはみられないようである。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・12月は前年から10%以上の伸びを示しており、同様の伸び率が3月までは続くとみられる。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・今は大型物件の納入が少ないため、景気は変わらない。ベースとなる商材の受注量の動きをみると、3か月前から大きく減少していないが、今後、大幅に増加することも見込めない。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・販売量がやや減少している。重油、電気などのエネルギーコストの上昇により利益率も低下している。
	司法書士	取引先の様子	・例年と比較して、不動産の売買、建物の新築が少ない。また、会社設立登記も少ない。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	それ以外	・受注量は増えているが、人手不足で対応できていない状況にある。景気は一見良さそうに見えるが、チャンスロスを繰り返しているだけで、実体を伴っていないように見える。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前年の台風被害の復旧需要が減少してきている。
	x	-	-
	-	-	-
雇用 関連  (北海道)	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・人材不足の状況が続いているため、求人側では色々な方法で働く人を募集している。ただし、スキル不足の問題などからミスマッチの状況も続いている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・基幹産業である農業の生産額が過去最高になりそうな予測があることに加えて、前年の台風被害の復興工事で土木建設関連の受注が順調に伸びていることから、サービス業などの雇用環境が上向いている。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・ホテル、観光業、外食産業、物流業、家電量販店、住宅関連はいまだに新卒採用の意欲が高止まりしており、企業の採用担当者も頻繁に来校している。2月まで求人を続けたいという企業も相当数みられる。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・中途採用の求人ニーズは底堅く推移しており、企業からの面接の依頼も増えている。しかしながら、企業の採用のハードルは高く、採用に当たり妥協する様子もないため、人材と求人ニーズのミスマッチが続いている。一方、一定のスキルに達している人材は数社との面接をこなし、複数社からの内定を得ている。求人内容をみると、欠員補充というよりも増員のための採用活動が中心であり、企業からの求人は今後も増えることが見込まれる。
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・人材不足を背景に、運輸業、建設業の求人数が堅調に推移している。一方で紹介派遣や業務請負などの間接雇用の求人数が減少している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求職者数が6年1か月連続で前年を下回り、月間有効求人数が10か月連続で前年を上回ったことから、有効求人倍率は1.12倍と前年を7年9か月連続で上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・事業停止などによる離職が相次ぐなか、管内の求職者数は5か月連続して前年を下回るなど、減少傾向が続いている。一方、求人数は5か月連続して前年を上回っている。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・11月の有効求人倍率は1.11倍と高い水準で推移しており、業種によっては人手不足が深刻化している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・アルバイト、パートの求人数の減少が続いている。
x	-	-	-